

税過徴収、返還求め提訴

5 冷凍倉庫 宇部・下関両市に3200万円

宇部市と下関市が「冷凍倉庫」にかかる固定資産税などを過徴収していたとして、倉庫を所有する業者5社が26日までに、両市に過徴収金約3200万円の返還を求めて山口地裁下関支部に提訴した。

返還を求めているのは臨海興業（宇部市港町）と宇部魚菜埠頭中央冷蔵（同）、林兼冷蔵（下関市細江町）、松岡（同市細江新町）、マルハニチロ物流（東京都中央区）。

訴状によると、冷凍倉庫は劣化が早い「一般倉庫」より固定資産の減額評価が早いと、冷凍倉庫の指摘で発覚するまで最長で約40年にわたって過剰に徴収していたという。

価格が早い補正率が適用されるが、両市は1967〜87年に建設された5社の冷凍倉庫計14棟の固定資産税を割高となる一般倉庫として計算。2006年に業者側の指摘で発覚するまで最長で約40年にわたって過剰に徴収していたという。

普通のバイオリンとほぼ同じ重量にまで軽くできたマグネシウム合金製のバイオリン＝下松市



マグネシウム製バイオリン

新幹線など鉄道車両の先端部分の流線形をハンマーでたたいて形作る独自の技術を応用してアルミ製のチエロやバイオリンを製作してきた下松市東海岸通りの板金加工会社、山下工業所（山下竜登社長）が、今度はマグネシウム合金を使ったバイオリンを完成させた。

素材を見直すことで大幅な軽量化に成功し、演奏者への負担を減らした。

今年5月に作ったアルミ製バイオリンの試作品は重量が約1キと普通の木製バイオリンの2倍あり、「重たくて演奏が大変」という

下松の山下工業所、アルミに続き 匠の技で軽量化

難点があった。実用的な金属としては最軽量とされるマグネシウム合金極薄板（厚さ1ミ）を採用したことで寸法は以前とまったく同じながらも、木製よりもやや重い程度の539gにまで改良できた。

同社によると、マグネシウムは常温での成形がほとんど不可能という、社内での加工実績もなかったが、ベテランの技術者らがハンマー一本で滑らかな曲面を生み出す「打ち出し板金」技術を駆使して胴体の表板や裏板などを精密に形作った。最も難しかったのは、燃

発覚後に両市は過去10年分の過徴収金を返還したが、業者側は「誤った基準で固定資産価格を過大に評価した重大かつ明白な過失がある」として、倉庫建設当初からの過徴収金の返還を請求。両市の資産税課は「弁護士と協議しながら対応を検討していきたい」としている。

岩国で山林火災

岩国市美和町長谷の山中で24日、山火が発生し、

26日午後1時10分ごろ雑木林や雑草など約2万平方メートルを消失して鎮火した。25、26の両日、県防災ヘリコプターが出動するなどして消火活動にあたった。けが人や住宅への被害はなかったという。

岩国署などによると、現場は民家から数キロ離れた山間部。山林火災は24日午後5時50分ごろ、岩国地区消防組合の男性が見つけた。岩国署などが出火原因を調べている。

えやすいマグネシウムをいかに溶接するかだったが、試行錯誤しながら最適な方法を見つけ出して完成させた。

26日に同社でお披露目会があり、アルミ製バイオリンのときに続いて周南市久米のバイオリン奏者、三好真樹子さん(29)が演奏。三好さんは「軽くて響きもすぐ良くなった。アルミは3分が限度だったが、これなら20分は弾けそう」。研究用に所有していたマグネシウム合金を今回のために提供した東洋鋼鋳の森田俊一生産本部長兼下松工場長は「マグネシウムは溶かして成型に入れるなどして成形するのが普通で、常温加工はできないというのが常識。こんなに精巧に加工できたとは非常に驚いた」と関心していた。

11月4〜6日に東京都の東京ビッグサイトで開催される「中小企業総合展」でアルミ製のチエロやバイオリンとともに展示。同社の技術の高さをPRする。

山下社長は「最軽量で将来性のある素材の加工ノウハウを蓄積でき、大きな収穫となった。表面が酸化しやすくなるので、美しさを保つ処理方法など改良を進めたい」と話していた。

(石田晋作)